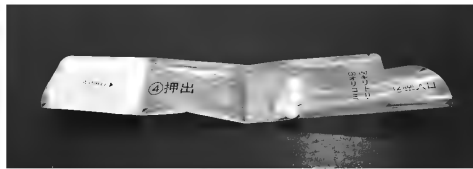


モリモト医薬

ゼリーで容易に服薬

ワンドーズパッケージ開発

製剤分野のベンチャー企業であるモリモト医薬(本社吹田市、盛本修司社長)は、服薬支援ワンドーズパッケージ「GTパック」



中央に服薬補助ゼリーを封入したGTパック



パッケージの端をくわえ、ゼリーと一緒に薬を飲み込む

(仮称)のプロトタイプを開発した。錠剤やカプセル剤をセットし、封入されたゼリーを押し出して服用するもの。嚥下困難な患者の服薬を支援するほか、外出時の服薬にも役立つ。今後さらなる改良を加え、服薬補助食品として来年後半頃に発売したい考えだ。

GTパックは、服薬補助ゼリーを中央に封入したワンドーズパッケージ。水なしで1回分を容易に服薬できる。



稼働した10月から大阪研究センター

ブーンを使うことなく、このパッケージのみでセットから服薬までの作業を完結できることが特徴。また、錠剤やカプセル剤を粉砕せずそのまま服用できるように、ゼリーの粘度や付着力に工夫を凝らし、のみやすさを追求した。

同社は今後、医療現場などからの意見をもとに、パッケージの形やゼリーの性状を改良した上で、本格的に販売する計画。既に現場の薬剤師からは「粉砕できない錠剤の服薬にGTパックを活用したい」などのニーズがあるという。改良に向けて今後、各方面との連携を深めたい考え。その一環として、服薬支援をテーマにした研究会を来年1月頃に発足させ、病院や薬局の薬剤師、大学、製薬会社の参加を呼びかける予定だ。

パッケージの形やゼリーの性状を改良した上で、本格的に販売する計画。既に現場の薬剤師からは「粉砕できない錠剤の服薬にGTパックを活用したい」などのニーズがあるという。改良に向けて今後、各方面との連携を深めたい考え。その一環として、服薬支援をテーマにした研究会を来年1月頃に発足させ、病院や薬局の薬剤師、大学、製薬会社の参加を呼びかける予定だ。

服用時にはフィルムの端をくわえ、ゼリーを押し出しながら有効成分と一緒に飲み込む。全く新しい剤形として活用できるほか、製品寿命を延長させる手段があるという。

治験薬製造設備を構築

「GT剤」の事業化推進

一方、同社は、医療用医薬品や一般用医薬品の新剤「GT剤」についても、事業化を進めている。GT剤は、オフラートで包んだ有効成分と服薬補助ゼリーを、細長い筒状のフィルムに区分けして閉じ込めたもの。

現在、GT剤に興味を示す複数の製薬会社と開発に向けた協議を進めており、治験薬製造の前段階にある。同社は今年10月、大阪市西淀川区に4階建ての「大阪研究センター」を竣工させた。ここにGT剤の治験薬製造設備を構築し、早ければ来年夏頃から一部を稼働させたい考え。開発が順調に進めば2015、16年頃にGT剤の医療用医薬品を上市できる可能性があるという。

もなり得る。

現在、GT剤に興味を示す複数の製薬会社と開発に向けた協議を進めており、治験薬製造の前段階にある。同社は今年10月、大阪市西淀川区に4階建ての「大阪研究センター」を竣工させた。ここにGT剤の治験薬製造設備を構築し、早ければ来年夏頃から一部を稼働させたい考え。開発が順調に進めば2015、16年頃にGT剤の医療用医薬品を上市できる可能性があるという。